

愛ワゴン

石垣市立富野小中学校 宜野座 愛子

一つ一つの思い出を大切に

卒業式には、丹精込めて育て上げた色とりどりの花に見送られ、卒業生は、思い出を詰めて、巣立っていくことでしょう。

1月も行ってしまい、2月も逃げてしまい、3月も去ってしまい そうなこの時期、一つ一つの行事を終え、振り返り、思い出づくり、卒業式、修了式の準備と慌ただしくなっています。

児童・生徒が卒業式の歌や呼びかけの練習をしている光景を見ると胸が熱くなります。共に過ごした日々を紐解きながら、一人一人の一つ一つの思い出を大切にしてほしいと思います。 **感動あふれる、卒業式、修了式を心をひとつに創りあげましょう。**

春3月、卒業式の季節である。

各地で在校生や保護者、先生たちの拍手に見送られ、卒業生達が学びやをあとにする光景が広がる。

卒業式をテーマにした

『樹』 村野四郎

おまえが入学したときは
まるでかよわい苗木のようだった
枝もなくそして葉もなかった
けれども
きょう おまえを見るとき
大きなおどろきに胸をうたれる
おまえの幹はしっかりとし
さしかわす知恵の枝々
おまえは
まだまだ大きくなる
やがて花を咲かせるだろう
梢は空にひろがるだろう・・・
おおそのとき
おおきなおまえの樹のかげに
どんなに美しい夢を
わたしは結ぶのだろう



苗木は自分の力だけでは育たない。

周囲のこまめな手入れと、愛情という「養分」も吸収しながら、少しずつ成長する。



失敗の涙も「肥料」にして根を張り、雨風に負けぬ若木になるのだ。



かよわい苗木は、6年間（9年間）でどれだけの枝と葉をつけただろうか。